



Q. 公共施設の利用を考える

A. 利用申請は、現在の方法が最良

安藤 春一 議員



もっと路線を増やしてほしいなあ～

Q

社会教育センターと供用施設の23年度利用状況は、対19年度比で5%も供用施設が上回っている。この差をどう分析し、受けとめているか。今の受付方法がベストと考えるか。その理由は。有識者懇談会の目的は、「効率的・民主的な行財政運営」である。今後は公平な行政という視点に立ち、利用実態も検討対象とすべきと思う。

A

社会教育センターと供用施設の比較については、設置目的や施設規模等に違いがあるため、利用件数による比較を論ずることは難しい。利用申請手続きについては、規則により利用者の皆様にお願ひしており、特別な問題もなく、現在の方法が最良であると考えている。有識者懇談会の提言書では、施設の稼働率や町

民ニーズ等の観点から、抜本的な合理化方策の検討が必要と言及している。データ及び資料は、

施設の利用状況等を含め提供している。

Q. タウンバス、路線増設を

A. バス事業者相互の

経営環境の悪化を懸念

Q

23年度の北コー入利用者は、一万二人と聞く。小牧市民病院、済衆館病院の年間利用者の見当はどうか。

済衆館病院や他の医院へ通院する人の利便を図って、初めて公共交通計画の目標である「住民の満足度」が得られると思う。済衆館病院前を経由、西春駅へ向かう西ルートの検討はできないか。

A

バス利用による病院通院者数は、把握していない。公共交通に対する住民の満足度を向上させることを目標としている。この目標達成に向け、タウンバスの充実、公共交通の利用促進・利用しやすい環境整備など、総合的な施策に努めている。

済衆館病院へのタウンバスの新ルート設定は、名鉄バスとの路線競争を生かせることとなり、バス事業者相互の経営環境の悪化に繋がることを懸念する。